三鷹市立第四小学校　令和8年度【　算数　】科　授業改善推進プラン

	前年度授業改善推進プランの検証	学習状況の現状と課題	指導方法の課題と授業改善策
第1学年	【成果】 ○ミライシードや復習プリントを通して、児童は楽しみながら学習内容の定着を図ることができた。 ○板書やプロジェクターを用いてノートの書き方（やり方）の手本を見せることで、児童は安心して書いたり取り組んだりすることができた。 【課題】 ○板書通りに書くことはできても自分の考えを伝える、書く、表す力が不足している。児童同士で考えを伝え合うこともまだできていない。	【現状】 ○ブロックやおはじきなど具体物を操作する活動を多く取り入れたり、半具体物で問題を解決したりすることで、数の概念の理解を深めている。 【課題】 ○自分の考えをもつことができている児童とそうでない児童とがいる。また、自分の考えを友達に伝えることにハードルを感じ、伝えることができない児童もいる。 ○絵や図を見て問題場面を理解したり、算数のお話作りをしたりすることに苦手意識がある。 ○同じパターンの問題ならば安心して取り組めるが、文章を読み、題意を理解して解決することに困難を感じている児童がいる。 【基礎・基本の定着化が必要な単元】 ・のこりはいくつちがいはいくつ（ひき算） ・どちらがながい ・なんじ、なんじはん ・たしざん・ひきざん（繰り上がり、繰り下がり）	【習得と活用】 ○ペア学習やグループ学習など小集団で活動する機会を多く設けることで、自分の考えを少しずつ友達に伝えられるようにする。 ○たし算における「合わせて」「増えると」、ひき算における「残りは」「違いは」の問題場面を教科書やプリントなど繰り返し取り扱うことで学習理解を深める。 【補充的・発展的な指導】 ○授業の定着を図る時間や家庭学習においてドリルパークを活用し、個別最適な学習を進めて学習内容の定着を図る。 ○自分の考えを説明する場面では、手本となる書き方を示すことで、ノートのまとめ方を理解しやすくする。 ○繰り上がりや繰り下がりの計算では、ブロック操作や反復練習や計算カード等で基本的な計算の力を高める。 【「三鷹『学び』のスタンダード」】 ○話を聞くときのルールを学年やクラスで決め、どの教科においても徹底して行うことで、自分の考えを伝えるだけでなく、友達の考えを聞き、学び合う姿勢を身に付けさせる。
第2学年	【成果】 ○見通しをもつことで、児童主体で学習に取り組もうとする姿勢が見られた。 ○立式の理由や計算のしかたについて、文や図、絵などを用いて整理して表せる児童が増えてきた。 【課題】 ○友達の意見を聞くことはできているが、その意見をかみ砕いて理解したり、自分の意見との相違点を考えたりすることはできていない。	【現状】 ○算数に意欲的に取り組む児童が一定数いる。 ○ミライシード用いて楽しく反復して学習することにより、基礎知識の定着を図っている。 ○毎時間自分の考えを表出したり、友達と意見を交流したりする時間をコンスタントに設けている。 【課題】 ○立式できてもその根拠を表出できない児童が一定数いる。 ○思いこみや先を急ぐあまり、計算ミスや数え間違いなどケアレスミスが目立つ。 【基礎・基本の定着化が必要な単元】 ・たし算、ひき算のひっ算 ・3けたの数	【習得と活用】 ○ミライシードを活用し、既習単元の補充的な指導を行い、習熟を図る。 ○「どうしてその式になるのか」「どうやって計算できるのか」考える時間を設ける。また、手本となる考え方を示したり、机間指導において個別で声掛けをしたりする中で、自分の考えを表すことが難しい児童も少しでも自分の考えを書けるきっかけを作る。 【補充的・発展的な指導】 ○自分の考えを表したり伝えたりする例を教師が提示することで、自分の考え整理したり周囲によりわかりやすく説明したりすることができるようにする。（言葉、式、図、絵、具体物など） 【「三鷹『学び』のスタンダード」】 ◎話を聞くときに自分の意見との相違点を考えたり、その意見の良し悪しを考えたりしながら聞くように声掛けをする。
第3学年	【成果】 ○基礎・基本の定着を確実にするために、東京ベーシックドリルの診断テストを効果的に活用し、個人の課題を明確にして学習を進めてきた。 ○苦手児童には具体物を扱うことを基本とし、抽象のみに留まらず、具体物から反具体物、抽象物へと段階を追った指導を行ってきた。 ○苦手児童には、ICTを活用した視覚化を用いた授業を行い、より理解につながるようにした。 【課題】 ○学期の始めに東京ベーシックドリルを活用し、基礎基本の定着を図ったが、理解が不十分な単元の個別フォローまでは行うことができなかった。	【現状】 ○習熟度別のコースに分け、学習を進めてきた。単元ごとに児童の既習内容の習得状況に合わせてコースの分け方を見直し、児童一人一人の課題に合わせた指導を行っている。 ○単元「わり算」については、かけ算と裏返しの関係であることや、計算方法について基礎・基本の定着を重点に進めている。 ○児童同士で話し合いをしながら解決したり、工夫をしながら説明をし合ったりすることを通して、知的コミュニケーションの場をつくるようにしている。 【課題】 ○時計の読み方や長さの感覚は、日常的に経験を積んでいる児童とそうでない児童に大きな差がある。学校生活で日常的に触れる機会を作り、経験を積ませる。 ○乗法、除法の学習では九九の習熟度に差があって、正答率や速さの差が大きい。演習量を確保し、習熟度を高める。 ○自分の考えを図などを使って説明する力が弱い。 【基礎・基本の定着化が必要な単元】 ・かけ算九九 ・わり算 ・時刻と時間　・長いものの長さのはかり方と表し方	【習得と活用】 ○習熟度別学習で指導を実施する。 ○「三鷹市小・中一貫カリキュラム」を活用し系統的な指導を実施する。（3～6年生） ○東京ベーシックドリルのテストを実施し、課題がある単元はミライシードや補充プリントに取り組ませ、習熟を図る。 【補充的・発展的な指導】 ○授業の中で、手本となる振り返りやまとめを発表しながら、良い書き方まとめ方を定着させていく。 ○習熟度別コースを生かし、進度を児童の理解度に合わせながら学習を進める。 ○課題に応じて、補充のプリントを用意し、習熟を図る。 ○学校生活の中で、時刻や時間を意識させたり、量感を意識させたりする声掛けを積極的に行う。 【「三鷹『学び』のスタンダード」】 ◎算数の目標は、学校で教員が指導して子ども自身が決め、家庭ではどのような目標を立てたか話を聞き、声かけをしてもらうなどして連携して、課題に取り組む。また、習熟度が必要な単元については、ミライシードなどで家庭学習の課題として取り組ませる。
第4学年	【成果】 ○基礎・基本の定着を確実にするために、東京ベーシックドリルの診断テストを効果的に活用し、個人の課題を明確にして学習を進めてきた。 ○数量関係をつかんで、式に表すことができるように、口を使ったり数直線を使うなどして授業を工夫してきた。 ○苦手児童には具体物を扱うことを基本とし、抽象のみに留まらず、具体物から反具体物、抽象物へと段階を追った指導を行ってきた。 【課題】 ○学期の始めに東京ベーシックドリルを活用し、基礎基本の定着を図ったが、理解が不十分な単元の個別フォローを行うことが必要である。	【現状】 ○ペアで交流する時間を設定することで、学習に不安がある児童も意欲的に学習に取り組めた。 ○習熟度別のコースに分け、学習を進めてきた。単元ごとに児童の既習内容の習得状況に合わせてコースの分け方を見直し、児童一人一人の課題に合わせた指導を行っている。 ○発展コースでは、自分の考えたことなどを伝え合う活動を取り入れて対話的学習の時間を設けた。 【課題】 ○文章題における立式の仕方や、文章題の意味の理解に課題がある児童が多くみられるので支援をしていく必要がある。 ○大きい数のしくみやわり算の筆算など数と計算の単元は、定着をしていない実態があるため、さらに定着を図る必要がある。 ○分度器を正しく使えない児童が一定数いる。 【基礎・基本の定着化が必要な単元】 ・大きい数のしくみ ・小数のしくみ ・わり算の筆算 ・角とその大きさ（分度器の扱い） ・直方体と立方体	【習得と活用】 ○問題を正確に理解して筋道を立てさせるため、図や表、数直線など活用できるツールを積極的に取り上げる。 ○習熟度別学習で指導を実施する。 ○「三鷹市小・中一貫カリキュラム」を活用し系統的な指導を実施する。（3～6年生） ○東京ベーシックドリルのテストを実施し、課題がある単元はミライシードや補充プリントを活用し、既習内容の計算練習を繰り返し行う。 【補充的・発展的な指導】 ○発展的なコースにおいては、より自分の考えを図や式、数直線など場面に応じて表現したり伝え合う中で学びを深めたりできような指導をしていく。 ○補充的な指導においては「三鷹市小・中一貫カリキュラム」を踏まえて既習となる知識等を振り返らせ、児童が系統的に学習を進められるようにする。 【「三鷹『学び』のスタンダード」】 ◎家庭学習においては、学校で教員が指導した上で子ども自身が家庭での学習の仕方について考え、どのような目標を立てたらよいか、どのように課題に取り組んだらよいかを考えさせる。また、習熟の必要な単元については、家庭と連携してミライシードで課題に取り組む。
第5学年	【成果】 ○基礎・基本の定着を確実にするために、東京ベーシックドリルの診断テストを効果的に活用し、個人の課題を明確にして学習を進めてきた。 ○児童一人一人が自分の考えをノートに表せるように、言葉だけでなく図や表を用いたり、式や数直線図を効果的に用いて指導してきた。 ○実感を伴った理解を促すために、日頃から児童が学習をまとめる経験を重ねたり、視点を提示して学習を振り返らせたりし、授業改善に生かしてきた。 【課題】 ○基礎・基本となる知識・技能の習得の差が大きく、児童それぞれの習得状況に合わせた指導の工夫を図る必要がある。	【現状】 ○習熟度別のコースに分け、学習を進めてきた。単元ごとに児童の既習内容の習得状況に合わせてコースの分け方を見直し、児童一人一人の課題に合わせた指導を行っている。 ○前学年までの知識の定着が乏しく、小数のかけ算・わり算では取り扱う計算パターンの習熟に苦労していた。 ○発展コースでは、自分が考えたことを友達に伝える活動を通して対話的学習の時間を確保した。 【課題】 ○式や図・表などを活用して考える力が弱い。 ○他の考えを読み取ったり、説明したりすることが難しい。 ○かけ算・わり算を正しく計算したり、コンパスや分度器を正しく使ったりすることができない児童が一定数いる。 【基礎・基本の定着化が必要な単元】 ・小数のかけ算 ・小数のわり算 ・体積	【習得と活用】 ○習熟度別学習で指導を実施する。 ○「三鷹市小・中一貫カリキュラム」を活用し系統的な指導を実施する。（3～6年生） ○東京ベーシックドリルのテストを実施し、課題がある単元のドリルを取り組ませ習熟を図る。（ICT機器の活用） 【補充的・発展的な指導】 ○発展的なコースにおいては、児童が自分の考えを図や式、言葉等を用いて多様に表現したり、他の考えを説明したりする活動を行う。 ○補充的な指導においては、「三鷹市小・中一貫カリキュラム」を踏まえて既習となる知識等を振り返らせ、児童が系統的に学習を進められるようにする。 【「三鷹『学び』のスタンダード」】 ◎家庭学習の進め方や例を提示し、子ども自身が家庭での学習の仕方について考え、目標や計画を立てられるようにする。また、保護者会等を活用し、保護者に積極的に発信し、家庭との連携を図っていく。
第6学年	【成果】 ○基礎・基本の定着を確実にするために、東京ベーシックドリルの診断テストを効果的に活用し、個人の課題を明確にして学習を進めてきた。 ○レディネステストを行うことで、既習事項の定着がどの程度か把握し、児童に合わせた授業を展開することができた。 ○数量関係をつかんで、式に表すことができるように、口を使ったり数直線を使うなどして授業を工夫してきた。 【課題】 ○学期の始めに東京ベーシックドリルを活用し、基礎基本の定着を図ったが、理解が不十分な単元の個別フォローを行うことが必要である。	【現状】 ○習熟度別のコースに分け、学習を進めてきた。単元ごとに児童の既習内容の習得状況に合わせてコースの分け方を見直し、児童一人一人の課題に合わせた指導を行っている。 ○学習到達状況に応じて、学習前にふりかえりの時間を設定したり、ペアやグループで交流する時間を設定したりすることで、学習に不安がある児童も意欲的に学習に取り組めた。 ○ミライシードを活用して復習することで、学習の定着を図ってきた。 【課題】 ○4クラス5展開でコースを分けて指導しているが、同じコース内でも既習内容の定着や、式や図等に表現し説明する力の差が大きい。 ○「割合」への苦手意識が強く、基準量や比較量の理解が不十分である。 【基礎・基本の定着化が必要な単元】 ・分数の倍 ・比 ・割合（前学年までの既習内容）	【習得と活用】 ○単元に合わせて習熟度別コースを見直し、児童の実態に合わせた指導を実施する。 ○「三鷹市小・中一貫カリキュラム」を活用し系統的な指導を実施する。（3～6年生） ○ミライシードのドリルやテストを実施し、課題がある単元の習熟を図る。（ICT機器の活用） 【補充的・発展的な指導】 ○発展的なコースにおいては、児童が自分の考えを図や式、言葉等を用いて多様に表現したり、他の考えを説明したりする活動を行う。 ○補充的なコースにおいては、基礎基本となる知識・技能（乗法九九等）に加え、「三鷹市小・中一貫カリキュラム」を踏まえた既習内容を振り返らせ、児童が系統的に学習を進められるようにする。 【「三鷹『学び』のスタンダード」】 ◎家庭学習の進め方や例を提示し、子ども自身が家庭での学習の仕方について考え、目標や計画を立てられるようにする。また、個人面談や保護者会等を活用し、保護者から家庭での学習の様子を共有しながら家庭との連携を図っていく。